## SY6-3

# いちばん頑張ったのは自分 －命の大切さ伝え隊の活動から－

平井　和恵
一般社団法人鳥取県助産師会

本会は、助産師の臨床現場での体験から「もっと命と性の大切さについて子ども達に伝えたい！」という思いを実現するため、2004 年度から性教育出前教室の活動を事業化し「いのちの大切さ伝え隊」を立ち上げた。

性と生殖の健康と権利を守る専門職であり、命の始まりから誕生、その後の成長を母子と家族のそばで支え、時には命の終わりにも立ち会う助産師だからこそ伝えられることがある、という自負のもと今日まで活動を続けている。立ち上げから 19 年。これまで 95000 人以上の子ども達のために 1,700 以上の講座を実施してきた。

活動の目的は「命の温かさ、力強さ、はかなさを理解できる。」「性の主体者である自分、次の世代へいのちのバトンを持っている自分に気づく。」「人間の関係性としての性と命の大切さを理解できる。」の 3 つであり、隊の発足から一貫して変わっていない。そして、そのことにより子ども達の自尊感情や自己肯定感といった生きるエネルギーが高められ、自他の命がかけがえのない大切なものであるとより深く理解でき、そしてお互いに慎重な性行動が必要であると理解できることを目指している。

教室の内容は大きく 11 に分けたメニューとして学校に提示し、その中から選んでもらっているが、最も得意で最も助産師らしい基本的なメニューは「いのちの旅」と「いのちの誕生」である。母親も父親も知らない、もちろん自分自身も憶えていない赤ちゃんの頑張りや力強さ、ずっとそばにいるからこそ知っているお母さんの頑張り、家族の不安と祈り、皆が喜ぶ様子、助産師として命に向き合う強い気持ちなどを話している。命や性の温かさ、人間らしさを伝えるためスライドや映像は使用せず、なるべく教材を手作りしている。男女の出会いから赤ちゃん誕生にいたる過程を科学的にわかりやすく伝えることで命と体の仕組み、人間関係についての理解が深まる。赤ちゃん（自分）が主人公のストーリーは、自分には成長する力、生きる力があるのだと感じることができる。そして必ず「生まれてきてくれてありがとう」「待ち望まれて生まれてきた命」「いちばん頑張ったのは自分」「生きてるだけで 100 点満点」「自分の命も相手の命も大切に」と添えて話を締めくくる。生徒からは「自分がいちばん頑張ったとは知らなかった。自分ってすごい！」という感想を多くいただく。「自分は必要なのか？生きている意味はあるのか？自分なんて必要ないと思ってたので、今日の話が支えになった。」との感想もあった。命と性には時代と共に難しい課題も出てくるが、これからも子ども達の「自分ってすごい！」という気持ちを引き出せるよう温かみのある健康教育を続けていきたい。





Presented by Medical*Online